

薬剤数5～7種類以上はフレイルのリスク 2倍以上！

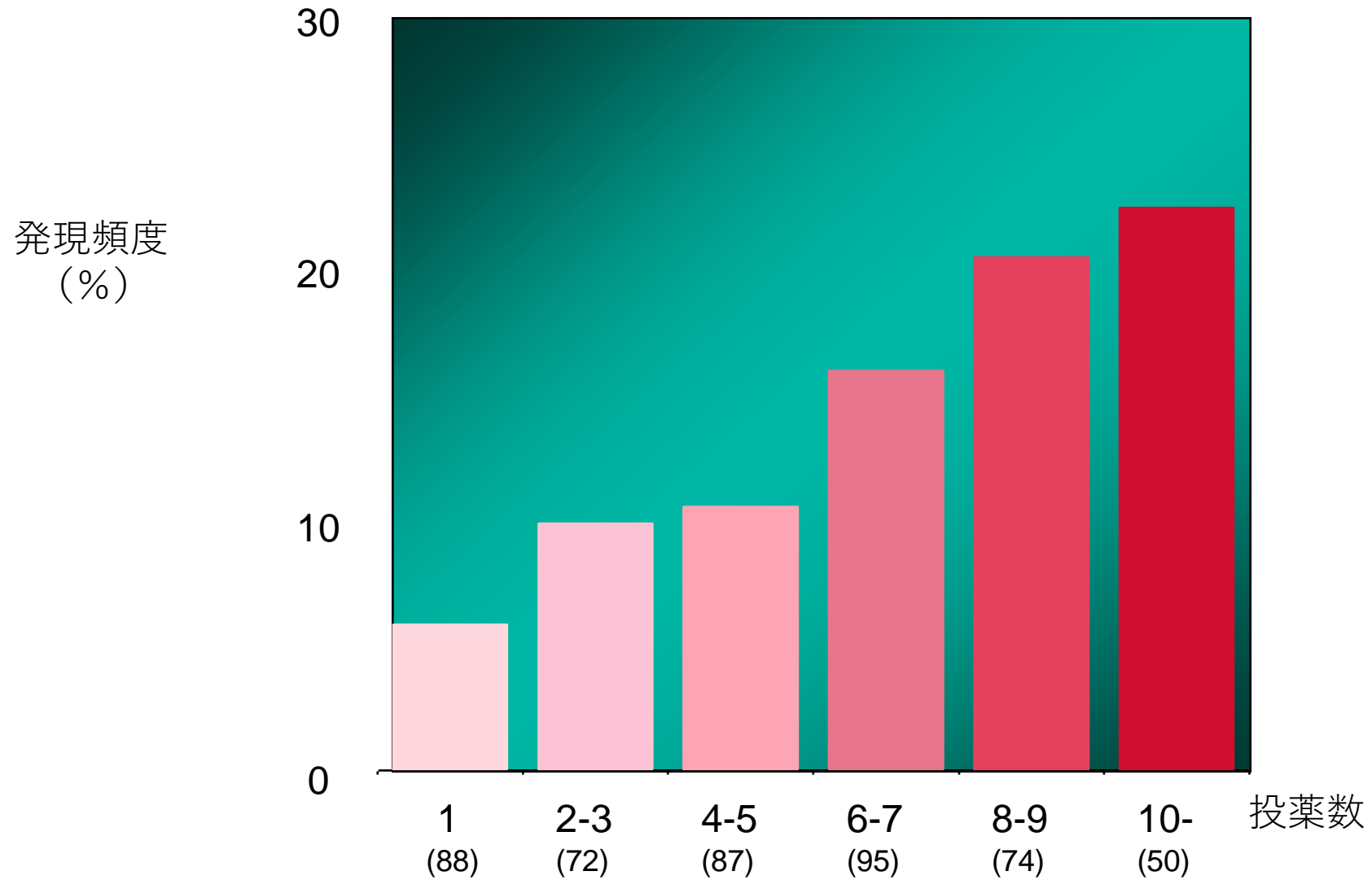
- フランスの70歳以上の報告によるフレイルのリスク¹⁾
 - 5剤以上でオッズ比 1.77 (95%CI:1.20-2.61)
 - 10剤以上でオッズ比 4.77 (95%CI:2.37-8.42)
- オーストラリアの70歳以上の報告によるフレイルのリスク²⁾
 - 5剤以上でオッズ比 2.45 (95%CI:1.42-4.23)
 - 10剤以上でオッズ比 2.55 (95%CI:0.76-8.26)

多投薬はフレイル発見の手がかり

- 横断調査:フレイルを最も効果的に同定できる薬剤カットオフ値
フランス高齢者:6種類以上(感度61.7%、特異度52.4%、AUC0.58)³⁾
オーストラリアの70歳以上:6.5種類以上
(感度47.5%、特異度87.5%、AUC0.70)⁴⁾

1) Pharmacoepidemiol Drug Saf 2015;24:367-646. 2) Clin Pharmacol Ther 2012;91:521-528
3) J Am Med Dir Assoc 2015;16:259-261. 4) J Clin Epidemiol 2012;65:989-995

投薬数と薬物有害作用発現頻度

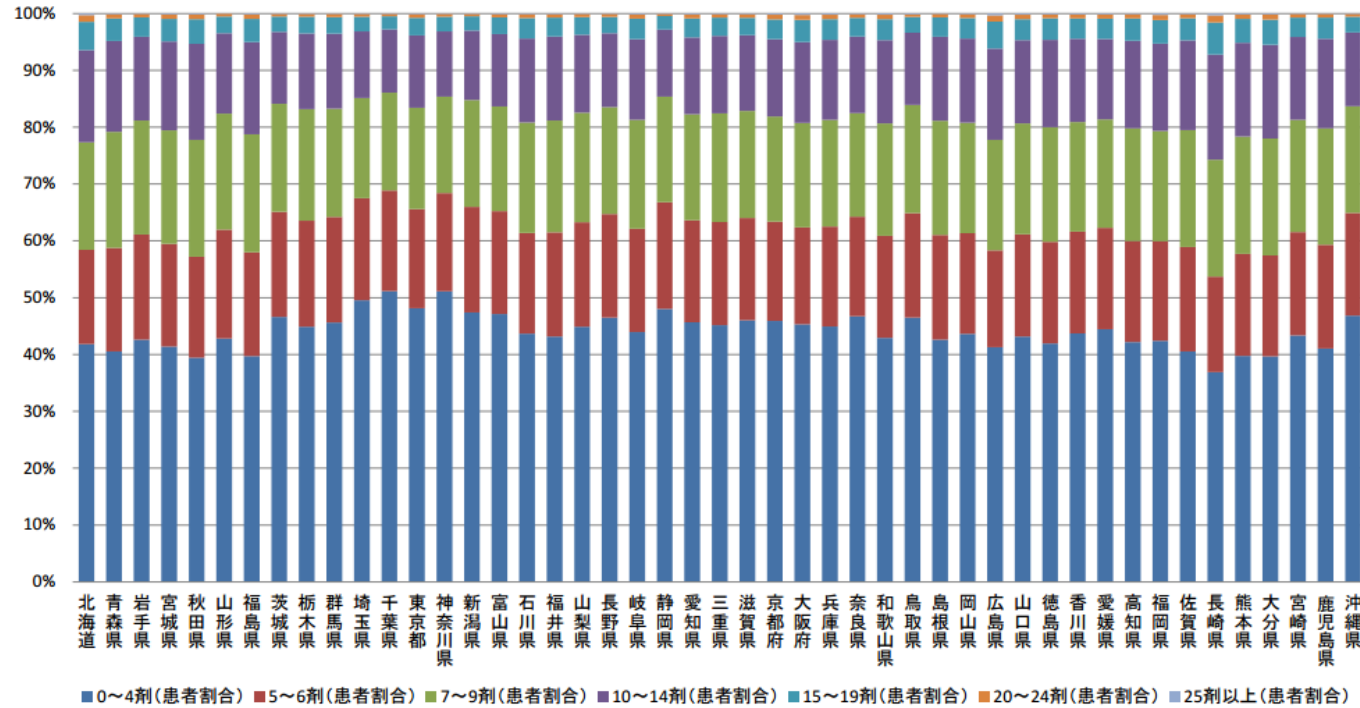


資料1より

【医薬品の投与】

同一月内に複数種類の薬剤を投与された65歳以上の患者の割合

○各都道府県において、同一月に、複数種類の薬剤を投与された65歳以上の患者の割合をグラフにしている。



Excessive Polypharmacy
Polypharmacy

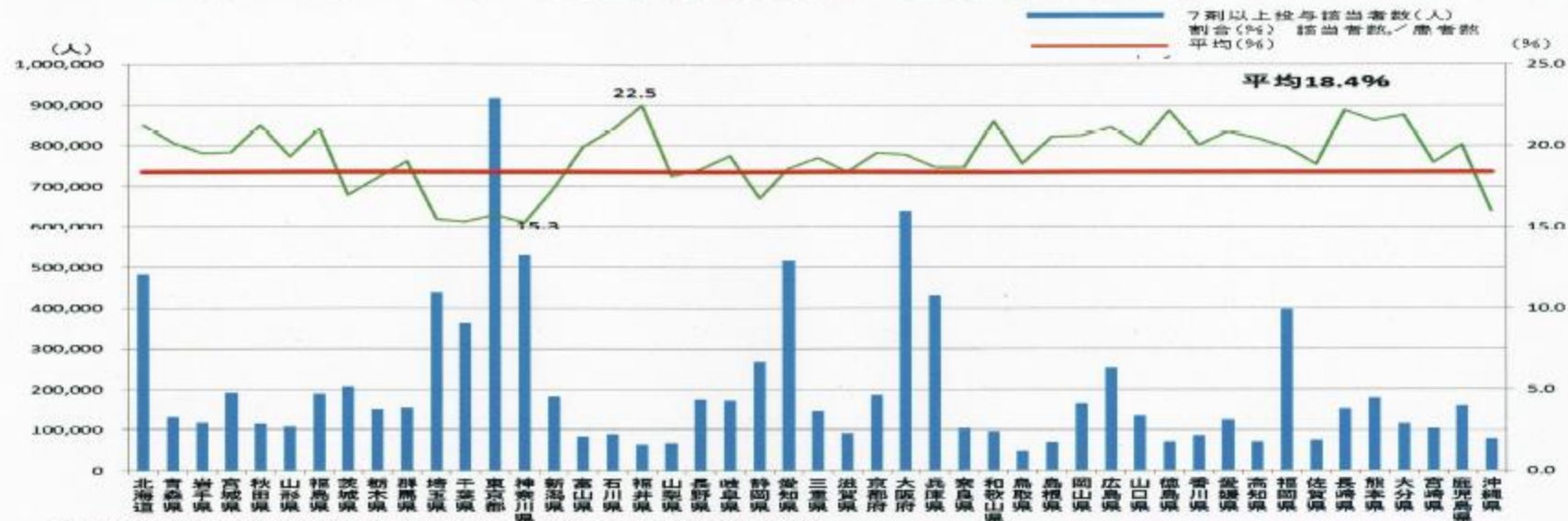
(注) 平成25年10月の入院外レセプト、調剤レセプトについて、医療機関所在地、薬局所在地ベースで分析。
※患者Aがa県の薬局から3種類の薬剤を、b県の薬局から6種類の薬剤を投与されている場合は、b県で計上。

大問題：厚労省第III期データヘルス計画、ポリファーマシーを15剤としている！

7剤以上投与の状況

※同一月に7剤以上の処方を受けている患者について算出。(異なる医療機関で同一の薬効の薬剤が処方されていた場合も1種類とカウントする。)

7剤以上投与 (市町村国民健康保険+後期高齢者医療) について



7剤以上投与 (被用者保険) について

